

てんさんぽ◎ その48 てんてん 系田川 系田



宝塚市役所から宝塚新大橋を渡り、武庫川左岸を歩きました。クリーンセンターとは反対の方向に歩いて行くと、木陰にベンチが置いてあるエリアなどがあつてくつろげます。一段高いところに石碑が見えたので近づいてみると、「伊子志の渡し」と書かれた石碑がピカピカ光っていました。石碑には、このあたりの歴史が書かれています。急流だった武庫川には橋がなくて、大正の頃まで渡し船に乗って川を渡っていたとのこと。渡し船料金は一銭だったそうです。今でいうと250円くらい。バス代と同じですね。小浜村と良元村のエリアをつないでいた渡し船、市制70周年のこの折に振り返ってみるのもいいかもしれません。(貂々)

宝塚市大使 やすみりえの「川柳日和り」

本誌12月号で「あいさつ」をお題に川柳を募集。応募総数97句の中から川柳作家のやすみりえ先生が選んだ秀作を紹介します。

天

じゃあまと
言っても続く
立ち話

七夕ぜん哉 様

講評

とても身近に感じる内容です。作者が日常生活の中で見つけたお題にまつわる場面や人の様子。上手に表現なさっています。

地

あいさつは
軽くスルーの
反抗期

古川裕美 様

講評

反抗期の子の表情まで伝わってくる一句。「軽くスルーの」という中七部分にその雰囲気がよく表れています。

人

あいさつで
友だち増える
一人旅

野崎精子 様

講評

あいさつを交わしたことから繋がる縁。旅先の風景を想像したくなる川柳ですね。

佳作

暗がりであいさつすれば地藏様

前川博子 様

ありがとう当たり前だと出てこない

松永博子 様

皆笑顔あいさつ交わすマスクなし

神野文子 様

おはようの声で伝わる今日は晴れ

伊藤義幸 様

やすみ先生の一句

深々とお辞儀をされて狼狽える

あいさつには、軽い会釈もあれば丁寧にあたまを下げるものもありますね。きちんとした場で、エレガントにあいさつしてくださる方を前にドギマギしてしまった出来事を詠みましたよ。



総評

素直な気持ちを詠んだ作品をたくさん寄せて頂きました。シンプルにスッキリとまとめた句は、読み手側の共感も得やすくなります。今回の「あいさつ」は人間模様を豊かに描けるお題だったように感じます。

次回の川柳募集

お題 「写真」

募集締切 4月19日(金)まで

対象 市内在住・在勤・在学の人

応募方法

はがきに、基本事項とお題をもとにした川柳(未発表作品のみ、3句まで)、作品について一言を書いて、〒665-8665(住所不要)市役所広報課「川柳」係へ。二次元コードから申し込み可。入選者にはプレゼントあり。

問 広報課 ☎ 77・2002 FAX 74・6903

